

第19回 沖縄 平和の旅

2019年9月20日

日キ教組連執行委員長 藤本公俊

日キ教組連平和人権担当 古川武治

宜野湾市のど真ん中にある普天間飛行場は、絶えず事故の危険性と爆音にみまわれています。戦後、民有地を強圧的に奪い取られて建設された米軍基地は老朽化が進み、米軍は新たな基地の提供を日本政府に(日本国民の税金で!)を求めています。自民党政府は、基地の整理縮小を望む沖縄県民の願いを逆手にとり、普天間飛行場の名護市東海岸の辺野古(ヘノコ)への移転を強引に進めようとしています。かつて市民投票では、新たな基地の建設にNOを表明したにも関わらず、岸本名護市長(当時)は、名護市周辺の地域に10年間で1000億円の振興基金と引き換えに、政府と手を結んでしまいました。県外移設を公約に当選した仲井眞前知事は、政府の圧力に屈し、基地建設を認めました。5年前の1月の名護市長選挙では基地反対派の市長が当選し、11月の県知事選では基地反対派の翁長が12月の衆議院選挙では、沖縄の4選挙区全てで反対派の議員が当選、沖縄の民意は繰り返し明らかになりました。にも関わらず、国は辺野古の新基地建設をあきらめていません。人を助ける海上保安庁の職員は辺野古のカヌーの一般市民を、暴力で排除しています。日キ教組連として、第19回目の「沖縄 平和の旅」を企画しました。

[1]案内・講演をお願いする方 (予定・交渉中を含む)

●謝花悦子さん

伊江島の平和運動のリーダーである阿波根昌鴻さんと共に行動をされてきた。阿波根さんの思想と実践は、岩波新書の『米軍と農民』と『命こそ宝』にも紹介されている。

●平良仁勇さん

久米島出身。9歳でハンセン病を発病。家族から引き離され愛楽園に収容。17歳で帰郷したが、就職や結婚を経て病気が再発。愛楽園に再入所。妻が心を壊し命を絶つ。HIV人権ネットワーク沖縄の子どもたちの「温かい心」に触れたことがハンセン病回復者と公表する契機になった。愛楽園のボランティアガイド。

●奥間政則さん

1965年、奄美生まれ。ハンセン病患者の両親から生を受ける。土木技師として、高江・辺野古の現場で戦っている。何十年もの隔離政策で差別を主導した国と、何十年も基地を押しつけてくる国の差別に反対している。

●知花昌一さん

読谷村チビチリガマの集団自決の調査の経験から、1987年の沖縄国体で、ソフトボール会場の日の丸を焼き捨てた事件が大きく報道された。元読谷村議員、現在真宗大谷派僧侶。

●前泊博盛さん

琉球新報社論説委員長を経て、沖縄国際大学経済学部教授。基地・軍事経済が与える地域経済への影響、経済安全保障、島嶼の経済・産業発展政策について研究されている。『日米安保Q&A「普天間問題」を考えるために』(岩波ブックレット2010)など著書多数。テレビのニュース解説などにも多数出演されている。

●高里鈴代さん

1940年台湾生まれ。東京都女性相談センターで電話相談員、那覇市婦人相談員を経て、1989年から2004年まで4期15年那覇市議会議員を務める。「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会(1995年設立)共同代表

●この他として、4日目の南部戦跡は、平和学習のためのガイドをされている方に案内をお願いします。

[2]日程 12月24日～28日 (スケジュール・講師は都合により変更になる事があります)

[3]費用 9万円～10万円 人数および出発場所により違います。

[4]締め切り 11月下旬 定員(22人)になりしだい締め切ります。

[5]申し込み方法 郵便かFAX、またはEメールで連絡を下さい。 aoyama-kyo-kumi@nifty.com 〒150-

8366 渋谷区渋谷4-4-25 青山学院教職員組合 古川武治 ファックス 03(3409)5784